

河曲地区地域づくり協議会

広報 かわの

令和8年3月20日 第24号

自治会役員 社会見学

清掃センターなど3施設 R7.12.4

令和7年12月4日、神戸飯野河曲地区の自治会関係者22名の皆さんが、亀山市総合環境センター、鈴鹿市不燃物リサイクルセンター、鈴鹿市清掃センターなど3施設を一日研修してきました。以下、見学報告です。

亀山市では平成12年から「総合環境センター」で多様なごみを一括処理しています。その処理方式は「直接熔融・資源化システム」といいます。見学時の案内によれば、4つの特長として、

①資源ごみを除く一般ごみ（生ごみ、紙くず、衣類、プラスチックなど）、粗大ごみ、破碎ごみに加えて、亀山独自の掘り起こしごみ（従来型の埋め立て処理で済ませていたごみを、量の極小化のため掘り起こして燃やし直す）まで「熔融炉」で一括処理。熔融炉40トンの炉が二基あって、一日80トンのごみを処理。

②ごみの再資源化・再利用するため、処理対象物を高温熔融処理（1700℃～1800℃）し、スラグ、メタルとして再資源化。ごみの持つエネルギーを熱回収し、電力等として活用。

③熔融の結果、埋立対象は熔融飛灰のみなので最終処分場の大幅延命化。

④有害成分の発生抑制に優れたシステムなので環境対策は万全、というお話でした。

鈴鹿市には処理施設として清掃センターと不燃物リサイクルセンターの二施設があります。いずれも事業主体は鈴鹿市ですが、その運営は「民間の資金・経営ノウハウ・技術を活用して施設的设计・建設に臨み、環境に配慮した最新の設備を導入し、その上で維持管理運営を託す」という形のPFI (Private Finance Initiative) 方式です。

まず、御菌町で平成15年に稼働し始めた清掃

センターでは、PFI 事業主体は鈴鹿市、事業者はスマートサービス鈴鹿株式会社で「全連続燃焼式ストーカ炉」3基が1日270トンのごみを処理しています。ここの4つの特徴は、

①自動燃焼制御によるごみの完全燃焼

②焼却時に発生する排ガス中の有害物質（ダイオキシン、塩化水素、硫黄酸化物、窒素酸化物、煤塵）の除去による公害防止

③ごみの計量、クレーンや焼却炉の運転等におけるシステムの自動化による省力、省エネルギー

④ごみ焼却による余熱の有効利用を図るため蒸気タービン発電装置を設置し、地球にやさしいサーマルリサイクルを実現、などが挙げられるそうです。

さらに令和3年3月、事業円滑化のための基幹的設備更新・改良工事が行われ、高効率なエネルギー回収による二酸化炭素排出量の削減に努めつつ施設の延命化が計られ、現在に至っています。

令和6年度運営実績をみると、年間ごみ搬入量57,182トン、処理過程での発電電力量2,147万kw h、



売電電力量1,212万kw h、そして焼却灰発生量、即ちセメント原料や石材の再生に至る再資源化処理量6,691トンとなっています。

次に国分町にある「不燃物リサイクルセンター」では、近年の廃棄物処理上の法整備に伴う地球環境の保全、ごみの再資源化、有効利用などの観点から、平成22年に「容器包装プラスチック処理施設」が新設されました。鈴鹿市内の認定ピンクごみ袋による分別ゴミ出しは、このシステムへの積極的参加であり、ひろく地球環境の保全に資しています。

また平成23年には「不燃・粗大ごみ処理施設」と「管理棟及び付帯施設」が完成しています。普段の透明認定ごみ袋によるごみ出しはこの施設に直結していて、鈴鹿市が目指す「人と環境にやさしい循環型社会」づくりに貢献しています。

こうした結果、鈴鹿市ではゴミの中から資源を効率よくリサイクルできるよう、民間の資金・経営ノウハウ・技術を活用して施設の設計・建設に臨み、環境に配慮した最新の設備を導入し、その上で維持管理運営を託す体制が確立しました。

さらに私達の身近なごみ問題を通じての環境学習ができるよう、情報コーナーや研修室、そして今回お世話になった処理施設の見学コースなども開設されました。

肝心の処理能力ですが、1日で容器包装プラス



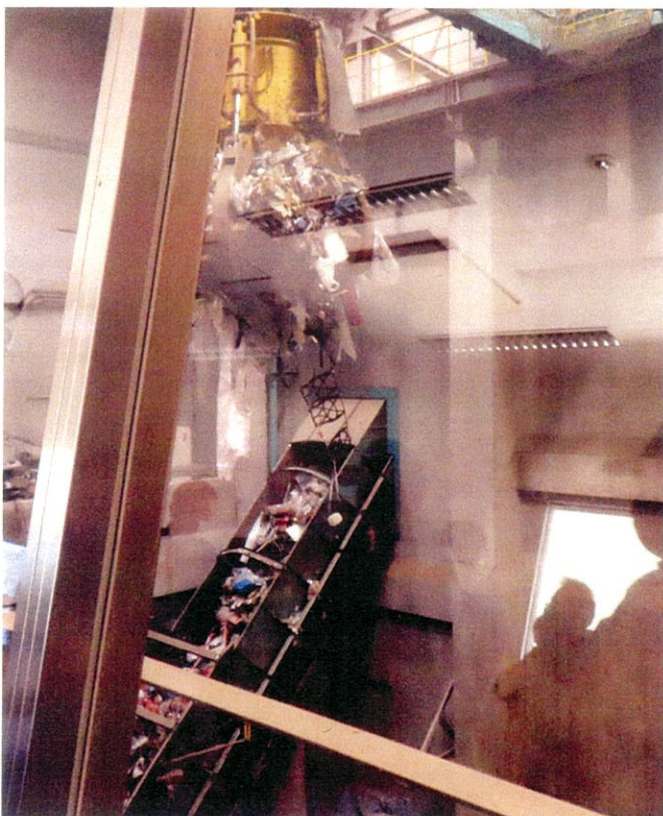
チック22ト、不燃・粗大ごみ44ト、ペットボトル2ト、有害ゴミ2トを処理するそうです。以上事業主体鈴鹿市、事業者鈴鹿エコセンター株式会社の見学記でした。

今昔対比 50年前の小学生の社会見学

昭和50年10月、河曲小学校の児童がこのゴミ処理場を見学した際に持参した『社会見学のしおり』ができました。そこには次の説明文が載っています。今昔を較べてみてください。

「ここには一日に60トのごみの始末ができる大きな炉があり、炉の温度はふつうは700度から800度ですが、調子のよい時は1000度にもなり、ゴミの処理をしてくれます。60トの炉ではゴミが処理仕切れないために近い将来には45トの炉が二つ作られる予定です。16年前の昭和34年にはこの煙突は長さ25m、直径3.1m、炉の深さは6mありました。」

因みに現在の煙突の高さは59mです。



河曲地区地域づくり協議会の歩み 実績ある組織を基軸に

昨年10月、地域づくり協議会の組織に関心のある方から、なぜ河曲は他地区のような事業部会制をとっていないのか、各団体の活動内容に合わせて〇▽部会などと改称すべきでは、とのご意見を頂戴しました。

協議会発足の当初から、河曲は「実績ある組織を基軸に」との考え方を根底に据えて、関係部局の理解のもとに編成と運営を進めてきていますが、これまで、そうした在り方をお伝えする機会を設けていませんでした。以下、河曲の組織編成の根底にある構え方をお伝えします。

平成の時代が終盤を迎えようとしていた頃、鈴鹿市の担当部局から、今後の自治会活動の在り方について、地域振興と自治会活動活性化の観点から、分野別の活動体を前提とする新規組織編成が有用と思われるので、準備方の皆さんに説明に出向きたい、との連絡がありました。

すでにそれまで40年以上にわたり、各自治会それぞれに活動実績があり、地区全体で動く際にはさらに誇り得る成果を挙げてきている河曲地区にとって、何が起こるのか、どう動けと迫られるのか、など説明会当日は準備委員一同、重く身構えて出席しました。

説明は地域協働課の方の担当でした。その趣旨、新組織の骨子、なすべき事業など話は多岐にわたりましたが、内容を詳しく聞くにつれ、重かった構えはどんどん軽くなりました。お話の声も軽やかに聞こえるようになりました。

それは、聞いているうちに、仮に明日、河曲地区の活動報告書の提出を求められても明後日にはしっかりした内容のレポートが書けるとの確信が持てたからです。

それで、新たに求められた動きの多くを河曲では既に実践している、組織は実質的に動いているとの既達感のもとに、実績ある現況を基軸に据えて地域づくりを進めていきたい、と申し出て理解を得ることができました。

こうした経緯ゆえ、河曲の組織には他地区と異なる二つの特徴があります。

★一つ目 自治会総代会の立ち位置

河曲地区では自治会総代会を地域づくり協議会の「直下組織」とすることで地域づくり協議会との連携協力体制が図り得ると共に、体育委員会等の各種団体機関とも従来通りの関係が維持できることから、このような体制をとっています。

他地区では自治会総代会が、そもそも地域づくり協議会の組織外であったり、体育委員会等各団体や部会等と横並びの位置付けとなっています。

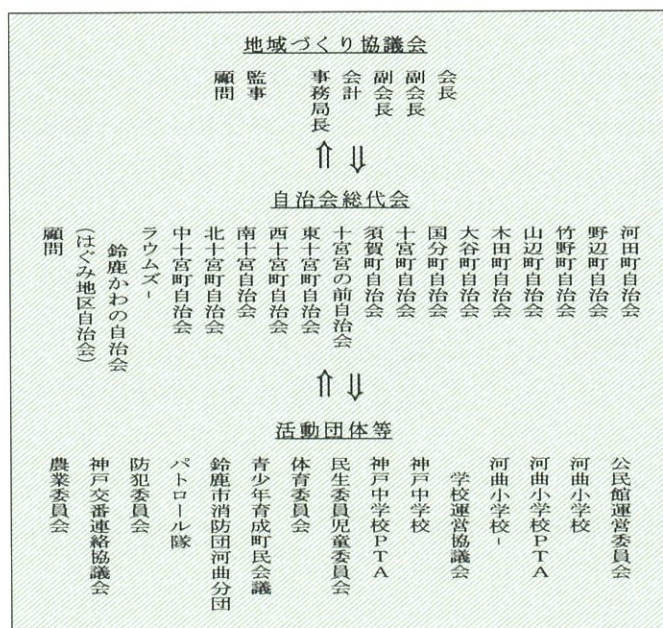
なお、自治会長の合議活動体ですので、自治会長会と称しても是なのですが、河曲はじめ近隣の各地区ではそれまでの区長を継いだまとめ役を総代と長く呼んできたため、各自治会の総代の集りとして自治会総代会としています。

★二つ目 専門部会制をとっていない

他地区では「安全安心（防災・防犯）部会」「こども育成部会」「福祉部会」「文化部会」「スポーツ部会」等の専門部会制をとっていますが、河曲はあえて専門部会を作らず、従来から各種団体が主催して実施している各種事業を、地域づくり協議会が「共催」という形態で支援参画しています。

さらに河曲の独自事業、すなわち「年4回の博物館・神戸中学校・河曲小学校の草刈り」「サテライト型防災訓練」「防災給食」等については、各種団体・機関の横のつながりを基に、全体として運営しています。

いずれにせよ、河曲地区の組織は時代や歴史的経緯を踏まえ、実績を支えとして今日を迎えています。



はじめての生成AI

使用ソフト：無料版ChatGPT

生成AI研修会 令和7年の流行語大賞30候補のひとつに「チャッピー」が挙がっていました。生成AIソフト ChatGPT を「ちゃっとじーぴーてい」と読まず、今風に短縮して「チャッピー」として流行した新語です。

12月13日、市の地域協働課の呼びかけで「生成AIの研修会」がありました。市内活動団体の広報資料作成に役立つようにとの市の配慮で、初心者30名が、3～4名の班に分かれて「チャッピー」で2時間半、習うより慣れろ、初歩的なチラシ作成作業をやってみました。

チャッピー 研修の開始時点でノートパソコン上の ChatGPT のソフトは立ち上がっていて、作業は事項検索や作業指示ができる環境からスタートしました。

私達の班はチャッピーに「一日研修旅行の募集案内」を作らせてみました。日時、目的地、費用、募集人数など必要事項を伝え、更に指示事項として楽しい雰囲気のもの、と注文しました。すると、花のイラスト入りでフォントもそれなり、レイアウトもなるほどのチラシがすぐに生成されました。目的地の説明は当然として、感心したのはチャッピーが参加人数に「先着順」と制限条項を書き加えてくれたことです。

現況 翻って今の作業手順は、まずWikipediaかYahooを立ち上げて各種の文字情報、画像などを確保したのち、それらに手許資料と取材記事を加え、コピーなども適宜施して、馴染みの文書作成ソフトで広報誌を作っています。手持ちのYahooは既知情報の提供のみで、モノを生成することはないので全てアナログです。

因みにこの『広報かわの』はPagemakerという文書作成ソフトで編集しています。情報収集、文字入力、写真処理、エクセルの表など等を組み合わせて仕上がり版下原稿4～8頁を作り、エプソンの写真用紙に印刷します。そしてこれを早川印刷さんで広報誌にしてもらっています。

もともと極く最近ではYahoo検索するとまずAIによる概括情報がトップに出てくるので、この辺りの事情は大きく変わりつつあります。

ポルトガル語併記 これらに対し、研修会場では ChatGPT が自前の膨大な既知情報を駆使して、テーマに沿ってこちらが与えたデータと希望条件をきっちり書き込んだうえ、少し化粧も施した「おしゃれな形」にして仕上げてくれました。

隣の班では、ゴミのポイ捨て禁止、の張り紙を作りたいとの意向で、簡潔明瞭、そして在日外国人も意識してポルトガル語併記のチラシを生成させていました。この辺がチャッピーの得意とするところのようで、Naõ jogue lixo と綴った1行が入っていました。

Gemini 鈴鹿市シルバー人材センターの会報75号には、昨年9月にGoogleのGeminiを用いてスマホ教室を開催し、AIの使用体験をしたとの記事が掲載されていました。また、過日の大学入学共通試験の国語の問題にチャッピーが挑み、なんと満点をとったとの報道もありました。ほかにCopilotも最近よく見かけます。

チャッピー歴1年 去年の12月下旬、お隣から白菜を頂戴しました。チャッピー歴1年以上で使い慣れていて、海辺育ちで、農業は素人だったのですがチャッピー片手に農作業を始め、白菜を見事に育て上げ、結果、我が家にオスソワケが到来したのです。生来フットワークもいいので、AIと対話して作業すればどんなことも何とかなる、との域に達してみえます。

チャッピーは、慣れてその機能が呑み込めてきたら、有能な助手ないしはアドバイザーとして迎

はじめての生成AI
～市民活動をちょっと便利に～

本日の目的

- AIを「怖くない・身近」だと感じてもらう
- ChatGPTでできることを体験してもらう
- AIに興味をもってもらう

日時：2025年12月13日 講師：三宿仁

使用ツール：無料版ChatGPT

えて当然の優れた相方、であるようです。

AIについて感想を尋ねると、勤務先では産業用AIを日常的に使っていて、今後はAIに使われるだけの要員か、使いこなせる人材か、が企業戦士の分かれ目になると思う、とのことでした。

変化 そういえば昨年12月の朝日新聞に、AIに何を委ねるかという記事が載っていました。「AIの日進月歩の進化と急速な普及はジャーナリズムにも大きな変化をもたらさそうです。隠された事実を光をあてる調査報道や五感を駆使した現場ルポ、心の深層に迫るインタビューは、AIでは代替できないので価値が高まる気がします。」とありました。

想定外の危険な傾向 今回のAI研修では、始めに下記の3種類のソフト紹介がありました。

1. 初心者用の簡便ソフト
2. 初級者用の本格無料ソフト
3. 中級以上の有料完全ソフト

このうち、当日は初心者用の簡便ソフトを使用したのですが、それでも納得できる仕上がりの



チラシができました。高性能な有料チャッピーを日常的に使いこなせるようになれば自分に苦手なことも楽に生成出来るでしょう。

但し、思いもよらぬ結果の生成も伴うようです。いとも簡単にフェイクが作れる世の中です。どんな情報もパソコンやらスマホなどを介在させての処理は、悪意ある第三者の餌食になってしまふことがあります。

講師の三宿さんからは、研修会の最後にまとめとして、想定外の危険な側面も持ちあわせている、十分気を付ける様にとの指導がありました。

再生二期作への展開

米不足と地球温暖化を見据えた稲作

初耳 昨年10月5日、神社の秋季例大祭の直会の折、農業委員さんと同席になりました。そのうち話題が、稲田のひこばえが例年と較べて随分伸びたまま放置されているが何故ですか、に及び、そこで初めて「再生二期作」という稲作が進行中と教わりました。つい先年まで減反に取り組んでいたが、今回は地球温暖化に加えて米不足を見越しての増産に至った背景もお聞きしました。

これまでの二期作 例えば八丈島より遥かに南の大東島などでは気候に恵まれているので、田植えを春夏二回行う完全二期作が行われています。

- 早春に播種→1回目の田植→登熟→夏に稲刈
- 盛夏に播種→2回目の田植→登熟→秋に稲刈

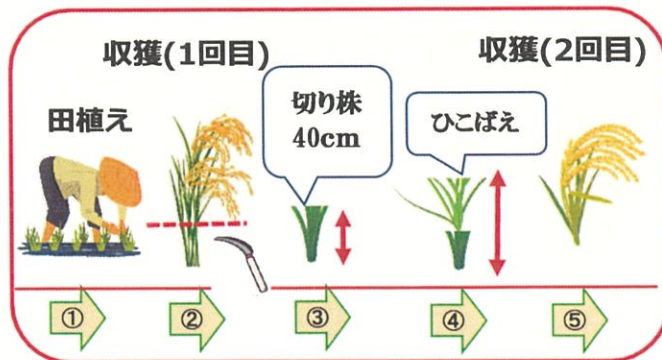
再生二期作 令和7年3月から11月末にかけて河曲地区周辺では年間2回の稲作が行われました。1回目はこれまで通りの作業行程で完結する第一期の稲作。次いで稲刈り跡の株から自力で伸長してくる二番苗を活かして省力的に育て上げる第二期の稲作です。行程をイメージ図化すると、

- 早春に種播→田植→育成→登熟→盛夏稲刈
- 稲刈後の刈株に施肥→育成→登熟→晩秋稲刈

この稲作の要諦は一回目の刈り株を活用することです。播種、代掻き、田植えに要する時間と手間を省き、夏のおわり頃、刈り株から稲苗(ひこばえ)が伸びて二番穂が籾の登熟を始め、冬の到来までに収穫が済むように設計された「再生二期作」という短期決戦の新農法です。

定義 農業・食品産業技術総合研究機構(農研機構)が令和4年から5年にかけて開発し、今年ひろく一般化した稲作法です。同機構はこの農法を次のように定義しています:

水稻で一回目の収穫時に株を高く刈残し、残した株から伸びる「ひこばえ」を育てて二回目の米を収穫する栽培技術方式



コメ再生二期作のイメージ

前提と7要件 この方法は、地球温暖化への対処を発端としています。今後は生育可能期間が一層長くなるとの想定のもと、日本列島本州以南であれば稲の栽培育成に必要な7要件を満たせるはず、として始めた農研機構の研究の成果です。

7要件とは、①一番穂収穫時期の平均気温25度以上、二番穂生育期間中の平均気温20度以上、9～10月の日照時間：月間150時間以上、②再生能力の高い品種ひとめぼれ、あきたこまちなどが最適、③最重要要件：刈取は下茎2～3節を残して地表35～45%の水平高刈り、④施肥は一番穂収穫直後に窒素、一週間後にリン酸加里、出穂2～3週前に窒素、⑤水管理として収穫直後は浅水で根活力維持、再生初期は間断灌漑、出穂期以降は浅水維持して登熟促進、⑥カメムシ、ヨコバイ、イナゴなど病虫害防除の強化徹底、⑦出穂後40～45日で稲刈、籾水分20～25%、黄化率80%以上、乾燥温度45度以下で緩慢乾燥。

そして刈取は刈高調整可能な汎用コンバインで。反収目標は一番穂530kg、二番穂180kg前後。

今年の作柄 新農法に取り組んだ方のお話は以下の通りです。今年は日照時間に恵まれ、台風の影響も皆無、コンバインは稲刈専用を流用、用水の計画配給は9月30日に終了したが干上ること無く、10月もまずまずの水利下で生育が進んだ(下掲写真 一番穂の刈株から二番穂が伸長)。作柄は一番穂が8月中旬に、専用コンバインの限界刈高30%で育てた二番穂が計画通り11月上旬に収穫できた田は良好だった。一番刈の作業日程の遅れによる不順田が少し出た。河曲の農協倉庫にはかなりの二番穂米が積み上がっていた。今回は初挑戦ながら想定していた成果は得た。来年も米価や肥料価格など営農収支に目算がたてば、今回の知見や経験を踏まえた作付も考えられる。



試食 そして11月30日、その農業委員さんから、例の二期作の米が仕上がった、いま旬の話題の新米だ、後学のためにも試食してみて、と摺り上がったばかりの米2合を頂戴しました。

美味でした。9月から食べていた新米(一期米)と同じでした。写真は、試食に頂戴した再生二期作米(右)と地元産の一期作米です。



今後のこと 今後、この再生二期作を進めて行く場合、課題として用水の確保があります。河曲地区は木曾川水系のうちの鈴鹿用水に頼っています。配水は地区別の番水制で、須賀では4月17日が荒水(利用可能初日)でした。水系は異なりますが、鈴鹿市南部の御菌町あたりでは3月早々から稲作に臨んでいます。今年の経験からすると、天水も含めて4月、10月の水が課題だそうです。

品種は多くの方がコシヒカリで二期作に臨んでみえました。九州では「にじのきらめき」が再生専用品種として開発されています。いずれ温暖化で北海道が米の作付適地になって、コシヒカリがエゾヒカリなどに変身するかもしれません。この農法の持続には適地適種の開発が案件のひとつのようです。

ラバーポール設置工事 完了

河田地区内の通学路安全確保のためのグリーンベルト路面標示とラバーポール設置工事が12月に完了しました。



河曲公民館文化祭 濃密な舞台発表・作品展示

全26サークル 年間活動の成果

文化祭 河曲公民館で活動している各サークルの濃密な成果発表会が2月21～22日にありました。ここでは舞台発表8団体、作品展示12団体等を当日の写真で紹介します。(団体等の活動名称は本誌8頁右下のサークル紹介番号と照合して下さい。)



令和7年度
河曲公民館 文化祭

河曲公民館 全26サークル
1年間の活動 集大成です!

◎舞台発表 新舞踊、フォークダンス、うた仲間Ⅱ、
太極気功、カラオケしゃくやく、空手道、民謡

◎作品展示 書道、絵手紙、フォト講座、暮らしの書、
着物きつけ、フォト写真、パッチワーク①②、
池の坊、グラスアート、深雪アートフラワー、
にじいろ、考古博物館特別参加

◎活動紹介 なかよレクキング、ふるさと探検隊、
ツボヨガ、スクエアス テップ教室、よるヨガ、
パレトン、公民館活動紹介

会場：河曲公民館
2月21日(土) 9:00～15:00(展示)
22日(日) 9:30～12:30(舞台・展示)
主催：河曲公民館運営委員会
協賛：河曲地区地域づくり協議会



写真紹介 7頁 ①会場概景 ②深雪アートフラワー ③バッチワーク1・2 ④にじゅう ⑤池の坊 ⑥書道 ⑦グラスアート ⑧暮らしの書 ⑨絵手紙 ⑩フォト講座・フォト写輪 ⑪着物きつけ ⑫博物館・飛鳥奈良時代衣装

写真紹介 8頁 ①博物館・平安時代双六「かりうち」 ②新舞踊 ③民謡 ④空手道 ⑤うた仲間I II ⑥フォークダンス ⑦太極気功 ⑧カラオケしゃくやく ⑨文化祭開催担当役員一同

お詫びと訂正 本紙22号で野辺の湯の花神事を記事に纏められた際に筆者のお名前を誤記いたしました。正しくは白塚山隆彦さんでした。ご迷惑をおかけした筆者にお詫び申し上げますとともに文言を訂正させていただきます。



河曲地区地域づくり協議会広報紙
『広報かわの』第24号 令和8年3月20日 発行
発行責任者 地域づくり協議会事務局 局長 松林嘉熙
事務局 河曲公民館内「地域部屋」 電059-390-1295